

冊子『ふるさと米子探検隊』のこと

酒井 董美 ただよし



『ふるさと米子探検隊』の一面から

米子市立図書館が不定期に出している冊子で『ふるさと米子探検隊』がある。大きさはA四判、一回八ページである。創刊は二〇〇四年（平成十五）で、十八年経った今年で二十三号になるから、一年に一回は発行されていることになる。当初の単色刷から十九号（平成二十九）からはカラーになった。地元小学生を対象に親身になって作られている内容に驚

き、行政機関としての在り方に一石を投じたものと思ったので一筆する。

各号特集形式を取り、現在まで一貫している。創刊号は「民話マップの巻」であり、「民話」ってどんな話？、「広報よなご」掲載の「米子の民話散歩」の九十三話について「民話マップI」で各小学校の校区内の民話の名前が並び、「民話マップII」で見開き二ページにわたり地図化している。「お話聞かせて」コーナーで伝承者訪問の手順やエチケット、録音後のテープ起こしの留意点など。また図書館らしく「探検隊の参考資料」に係図書を紹介する。第二号は「米子城入門の巻」。第三号「お寺や神社を調べてみようの巻」。第四号「淀江ってどんな町？の巻」と続くが字数の関係で詳細は省く。

最新の第二十三号は「米子の方言『米子弁』の巻」で時代と共に使われなくなっていく地域の言葉「米子方言」を取り上げている。一面には図書館で読める参考文献を「探検隊の参考資料」で示し、二面では「方言について知ろう」のタイトルで「方言の歴史」「共通語と方言」のミニ解説。三面では「米子に伝わることば、どのくらい知ってる？」のタイトルで「鳥取県の方言」の解説と「集めてみたよ！米子弁」が一覧表となって四面に続く。五面は「米子弁を伝える語り手の方にインタビュー」として、「ほうき民話の会」で活躍中の前会長・竹本厚子さんを写真入りの問答形式で取り上げている。六、七面は「みつけた！まちの中の『米子弁』」で、それぞれ写真を入れ、がいな祭、だんだんバス、DARAZ FM（だらずFM）、ありがとう、だんだん、よう来てごしなつた（JR米子駅階段）、妖怪やちの待つ おもっしよげな世界を がいに楽しんで ごしなつた（JR米子駅プラットホーム内の鬼太郎と目玉おやじの像の説明板）、八面（最終面）「米子弁を調べてみよう！」のタイトルで「調べることばを探してみよう」「調べてみよう」「まとめ。米子弁資料集をつくらう」「自分たちのことばは新しい？米子弁を使って話してみよう！」となっている。公立図書館のこのような努力の実績に、すっかり頭の下がった筆者なのである。（元島根大学法文学部教授）